

「研究と地域をつなぐ情報交流会」 WS（ワークショップ）について

- ①研究成果を地域活動に生かしてもらう
ための「ファシリテーター」の役割
- ②沼崎小学校での子どもの防犯活動
のサポート事例

(株)プレイスメイキング研究所 代表取締役 温井 達也

①研究成果を地域活動に生かしてもらおう ための「ファシリテーター」の役割

○地域活動のサポート役（主役は地域の皆様）

「ファシリテーター」には研究内容を分かりやすく地域の皆様にお伝えして、自主的な継続活動に繋げていただく役割があります。

○「テーマ」に合わせた地域活動への3つのアプローチ

■保守・メンテナンス活動（清掃活動・景観の点検・環境の改善活動）

■催事・イベント活動（お祭り・チャリティ・制作活動）

■運営・地域内や外部との話し合い活動（情報交流活動・勉強会・議論の場）

■保守・メンテナンス活動 (清掃活動・地域の点検・環境の改善活動)



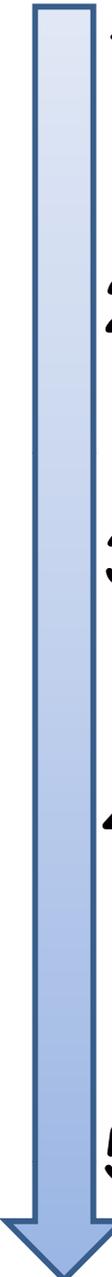
■催事・イベント活動 (お祭り・チャリティ・制作活動)



■運営・地域内や外部との話し合い活動 (情報交流活動・勉強会・議論の場)



○ 「ファシリテーター」によるPDCA

- 
1. 地域特性の把握 : P
地域の皆様との対話（現状をよく知る）
 2. 地域特性調査（データ収集・分析内容の読み込み等） : D
・ 地域ネットワーク図の作成
 3. 地域の特性に合わせた、地域主体の活動への提案 : C
・ 3つのアプローチの組み合わせ（バランス）を見る
 4. 地域の主体性を尊重したサポート : A
・ 地域の皆様の手間部分を減らして、楽しみや活動及び話し合いの時間が多くなるための工夫
 5. 自主的で継続できる地域活動につなげる : P
- * 地域主導によるPDCAのスタート

②沼崎小学校での子どもたちの防犯活動 のサポート事例



- ① 「危険なできごと」のあった場所の把握
→②要因の推測・共有
→③改善に向けた提案と実施

つくば市沼崎小学校での ワークショップの事例 事前調査



地域の活動者（関係者）への連絡及び現地の事前調査

つくば市沼崎小学校での ワークショップの事例

① 「危険なできごと」のあった場所の把握



- ・ 何の危険も感じないような場所で、声かけなどの危険なできごとが確認される場合もあります。
- ・ 写真を撮られたなど、現場を見ないと対策の必要な危険なできごとかの判断が難しい場合もあります。

つくば市沼崎小学校での ワークショップの事例 ②要因の推測・共有



- 危険なできごとがあった場所と状況及びそこで感じた事について共有する。
- 地域ごとで現在行われている活動について情報を共有する。

つくば市沼崎小学校での ワークショップの事例 ③改善に向けた提案と実施



沼崎小学校では、すぐに対策が必要と判断される危険なできごとは少なかった、しかし、子どもが日常どのような行動をしているのかを親が知ることが重要との考えから「親子登校」のアイデアが出ました。

■ P T A 主導による「親子登校・通学路の点検」
実施（10月12日）

（P T A 会長久保田様による説明）

■ おおきな地図 (MAP) A1サイズ
意識の共有、地域の方での作業

■ 対策検討に活用できるデータ化した地図 (MAP) A3サイズ
データ入力及び分析によるサポート

